

◆【海員随想】B I S K R A 号航海記 (22) ② 新木繁雄

7 月 23 日 スエズ運河通行

午前 9 時半になってもパイロットの乗船がなく、今日はノー・インストラクションかと思っていたら、その後ばたばたとスタンバイになった。例によって人夫がパッセージに店開きをしている。「前回の通過では、1 つも売れなかった」と、ぶつぶつ言って帰ったが、今回は少し売れているようだ。でもザーッと見て回ったところでは、欲しいと思われるものは何もない。小さくてあまり旨そうではないが、マンゴを 10 個買った。予想通り筋ばかりで、果肉が少ない。

午後 2 時から 5 時まで、大ピーター湖で反航船待ち。糸をたらしてみたが全然当たりなし。ミッドナイト、ポートサイド沖でパイロットや人夫を降ろし、地中海に入った。

7 月 24 日 地中海航行中

地中海も夏真っ盛りの今は、ものすごく暑い。帽子なしで外へ出ると、髪の毛がジリジリ焦げるような気がする。

デッキにトンボやツバメがいっぱい飛んでいる。マストのハヤブサは見当たらない。イルカがひっきりなしに船と伴走しに来る。アンカーの収まり具合が気になり、午前の機関室見回りの後、行ってみた。両方ともうまく収まっているけど、次の停泊地フランスのセテ（セツ）では多分自重では落ちないだろう。うまく収まっていなければ落ちるかもしれないが。

造船所からどのような修理方法を言ってくるか分からないが、根本的な修理としては、ホースパイプの径を大きくするしかないと思う。しかしこの修理はランニングではできない。

機関長に、エアーコンプレッサーの吸入フィルターを掃除するようアドバイスした。

7 月 25 日 地中海航行中

今日からイスラム教最大の年中行事、ラマダンが始まった。太陽が出ている間、食べ物はもちろんのこと、水を飲むことも、タバコを吸うことも許されない。それでも仕事は普通どおりやらねばならない。今日から約 1 カ月続くという。大変な宗教行事だ。でも彼らは体にすごくよいのだと言っていた。年寄り、子ども、妊婦、病人は特別に許されるのだそうだ。

アルジェリアの連中は、午後 9 時頃になると、全員食堂に集まり、大騒ぎをしながら食事をしている。町では夕方になると、住民にストレスがたまって、かなたこなた、けんかが始まるらしい。

フランス人の船長、ユーゴスラビアの機関長、それに日本人の武村と私、この 4 人は昼食用に小出し冷蔵庫にパン、牛肉、野菜、果物などたくさん入れてあるから、好きな物を取ってきて食べればよい。

1 号エアーコンプレッサーの安全弁の調整が良くない。エアータンクの圧力は 30 キロだが、29.5 キロで噴気してしまう。噴気圧調整ネジを 0 回転締め込んだ。OK。

「海員だより」